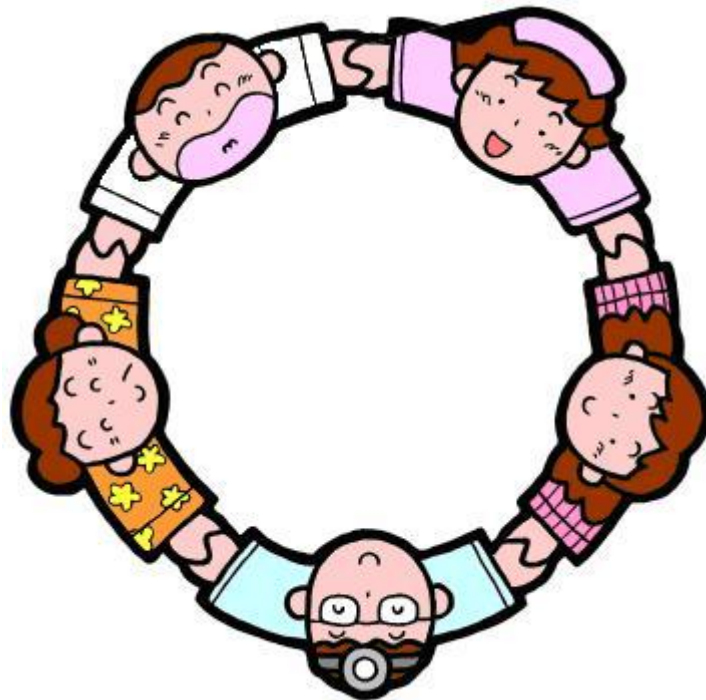


TC 療法の手引き

(パクリタキセル・カルボプラチン療法)



2009年4月

国立がんセンター中央病院

乳腺腫瘍内科グループ・薬剤部・看護部

はじめに

TC 療法とは、パクリタキセル (Paclitaxel) と、カルボプラチン (Carboplatin) という 2 種類の異なる作用の抗がん剤を組み合わせた治療法です。

抗がん剤の副作用の出かたには個人差があっても、すべての人に同じように起こるものではありません。薬の種類によってもその特徴が大きく異なります。

この小冊子には TC 療法によって起こりうる主な副作用とその対策についてまとめました。

TC 療法によって起こりうる主な副作用の種類、その予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対処方法を知ることにより、外来通院で治療を続けながらより良い日常生活を送れるよう、TC 療法を受けられる皆様にこの小冊子を役立てていただければ幸いです。

方 法

《点滴に用いられる薬》：

以下の 6 本の点滴ボトルを順番に点滴します。

<u>ボトルの内容</u>	<u>目的</u>	<u>点滴時間</u>
ラニチジン (ザンタック®) デキサメタゾン (デキサート®)	アレルギー予防 吐き気予防	約 15 分
↓		
クロルフェニラミン (クロートリメトン®)	アレルギー予防	約 15 分
↓		
グラニセトロン (グラニセトロン「マイラン」®)	吐き気予防	約 15 分
↓		
パクリタキセル (タキソール®)	抗がん剤	約 3 時間
↓		
カルボプラチン (カルボプラチン「NK」®)	抗がん剤	約 1 時間
↓		
生理食塩液	点滴管内の薬液 を洗い流す	約 15 分

《注射方法》：3週間ごとに（ ）サイクルの点滴を行います。

点滴にかかる時間は約5時間です。

(点滴当日に採血を行い、データを確認いたします)

サイクル	1			2			3			4			...
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	...
点滴	↓	休	休	↓	休	休	↓	休	休	↓	休	休	...

《内服薬》

● 38℃以上の発熱時に必ず飲む薬。



シプロキサン®錠 200mg



抗菌薬

38℃以上の発熱時に、朝昼夕食後2錠ずつ7日間飲みきる。

(熱が下がっても7日間飲み続けて下さい)

(発熱後3日経っても下がらない時は病院に連絡してください)

○ 38℃以上の熱が出てつらい時に飲む薬。

(熱が出てもつらく感じなければ飲む必要はありません)



カロナール®錠 200mg



発熱時の症状をやわらげる。

38℃以上の熱が出てつらい時に2錠ずつ服用する。

(熱が下がったら、飲み続ける必要はありません)

注射名　：　パクリタキセル
（タキソール®注）



* パクリタキセルはどうやって効くの？

通常、細胞は細胞分裂をすることで増殖します。分裂する速さに差はありますが、がん細胞の増殖も同じです。パクリタキセルは、この細胞分裂に必要な微小管に作用することで、細胞の分裂を阻止してがん細胞が増殖することを抑え死滅させます。

パクリタキセルは、その成分や溶解補助剤が原因と考えられているアレルギー症状が報告されています。この症状を予防するために、あらかじめ抗アレルギー薬を点滴します。

また、添加剤として無水エタノールを含んでおり、眠気、ふらつき、動悸など、お酒を飲んだときのような症状が出る場合があります。アルコールに対してアレルギーのある方やお酒に弱い方は、お申し出ください。

注射名 ： カルボプラチン
 (カルボプラチン「NK」®注)



* カルボプラチンはどうやって効くの？

細胞が分裂する時、DNA の合成が行われています。これは、がん細胞が分裂する時にも起こります。カルボプラチンは、がん細胞に取り込まれて、DNA の合成を阻止し、がん細胞の分裂を止めることでがん細胞を死滅させます。

副作用とその対策



TC療法を行った際の副作用はすべての方に起こるわけではありません。その程度には個人差があります。

以下に主な副作用とその対策についてご紹介いたしますので参考にしてください。

脱毛

初回のTC療法から2～3週間過ぎた頃より、髪の毛が抜けてきます。抜けはじめのころに頭皮がピリピリと痛むことがあります。脱毛は一時的なもので、治療が終了して2～3ヶ月で生え始めます。新しく生えてきた髪質が一時的に変わってしまうこともあります。やがて以前の髪質に戻ってきます。

対策

髪の毛が回復してくるまでの間、かつらやスカーフ・帽子などを使用すると良いでしょう。あらかじめ髪の毛を短めにカットするのも良い方法です。シャンプーは刺激の少ないものを使用することが望ましいでしょう。また、カラーやパーマは避けましょう。

しびれ（末梢神経障害）

TC療法では、10人に7～8人程度の割合でしびれを感じる方がいます。いったんしびれが出てから軽い症状のままで推移することもあります。投与を重ねるたびに強くなることもあります。

この症状は、手袋や靴下の着用範囲に起こりやすいと言われています。軽度の症状の場合、投与が終了してから数ヶ月以内に回復してくることが多いですが、症状が強い時には回復までに1年以上かかることがあります。

対 策

手や足に違和感を感じたり、しびれが出現した場合には、医療スタッフにお申し出ください。

また、点滴の回数を重ねることで、「物を落としやすい」、「つまずきやすい」、「ボタンがかけにくい」などの日常生活に影響があるときは担当医にご相談ください。

症状を緩和させるおくすりの内服、抗がん剤の減量、抗がん剤の一時休止などの対策をすることがあります。

痛みを伴う場合には、痛み止めの薬を用いて症状の軽減をはかることもあります。



筋肉痛・関節痛

TC 療法では、10 人に 7～8 人程度の割合で関節痛・筋肉痛を感じる方がいます。くすりを点滴してから 2～3 日後に症状が出現し、数日以内に改善されていきます。特に、背中や足の関節・筋肉で痛みを感じる人が多いです。

対 策

痛みを感じ始めたら、その周囲を十分にマッサージし血液の流れをよく保つと良いでしょう。



痛み止めの薬を用いて症状の軽減をはかることもできますので、痛みが強い場合は担当医にご相談ください。

注射部位における皮膚障害

このくすりは、注射の際のわずかな漏れでも皮膚障害を起こすことがあります。くすりを注射している間に、その注射部位が赤く腫れたり、痛みを感じる場合には、すぐに医療スタッフへお申し出ください。

アレルギー

アレルギーは、異物から自身を守るためのシステムが過剰に働いた時に起こります。アレルギーには、パクリタキセルによるものと、カルボプラチンによるものがあります。

◇◆アレルギーの主な症状とその対策◆◇

皮疹が出る

冷や汗が出る

息が苦しくなる

などの症状がでることがあります。

点滴の1回目、2回目で起こるアレルギーはパクリタキセルによるものと考えられています。この症状を予防するため、あらかじめ抗アレルギー作用のあるお薬を点滴して症状を抑えます。急激に血圧が低下するような重篤なものは100人に1人程度、皮疹などの軽度のものは10人に2人程度の方に起こります。

3回目以降は、上記のようなアレルギー症状の出る心配は少なくなります。点滴の回数を重ねることで同じ症状がでることがあります。この原因は、カルボプラチンによるものと考えられており、点滴の方法を工夫することで治療を続けることができる場合があります。

上記のような症状または体調の異変を感じた場合はすぐに医療スタッフにお申し出ください。起こったアレルギー症状に対して、適切な処置を致します。

白血球減少

血液中の白血球は、体内に細菌が侵入しないように守る働きをしています。一般的にくすりを点滴してから1～2週間目に白血球の数が少なくなり、3～4週間目で回復してくると言われています。白血球が減少すると細菌に対する防御能が低下し、発熱や感染を起こす可能性があります。この時期には予防が大切です。

また、扁桃炎・虫歯・歯槽膿漏・痔などがある方は、あらかじめ担当医へご相談ください。



対策

感染予防のために、外出から帰った際には手洗いやうがいをしましょう。また、ご自身だけでなく、周囲の方（家族など）も一緒に手洗い・うがいをするとより効果的です。入浴やシャワーで体を清潔に保つことも大切です。また、爪は短く切りそろえ、皮膚に傷をつくらないようにするとよいでしょう。

一般に、TC療法の場合、10人に1人程度の割合で発熱する方がいます。もしも、38℃以上の熱がでた場合には、処方された抗菌薬（シプロキサ[®]）を一週間飲みきってください。3日しても解熱しない時や下痢や嘔吐などの症状が重なった場合には、下記の電話番号までご連絡ください。

（国立がんセンター中央病院 代表:03-3542-2511）

吐き気・嘔吐

抗がん剤を注射した当日に現れる急性のものと、注射終了2～7日後に現れる遅延性のものがあります。TC療法では、予防のためにあらかじめ吐き気止めを点滴します。



対策

吐き気が出てしまい、コントロールができなかった時は、次回診察時に工夫をします。吐き気の程度・吐いた回数・食事の摂取量・排便の状況を担当医に伝えてください。

食事が摂れないときは、なるべく水分を摂るようにこころがけましょう（水・フルーツジュース・スポーツ飲料など）。また消化の良いものを少量ずつ何回かに分けて摂るのも良いでしょう。

また、趣味を楽しみ、気を紛らわすことも時に効果的です。

MEMO ～吐き気と便秘～

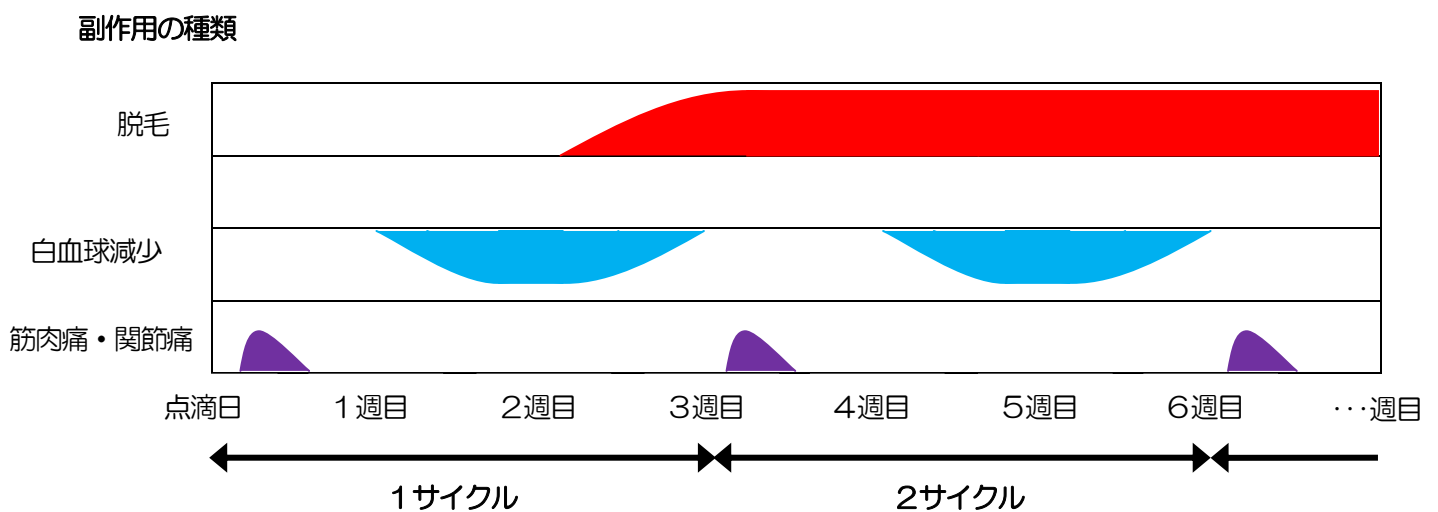
吐き気を止めるお薬の一つであるグラニセトロンで、便秘を引き起こすことがあります。便秘は吐き気の原因となることがあります。便秘が続くと排便が困難になってしまうこともあるので、適宜下剤を利用し、定期的な排便を心がけましょう。また、うまくお薬で便通をコントロールできない時はご相談ください。

爪の変化


爪が変色したり、変形するなどの変化が見られることがあります。治療が終わると徐々に回復してきます。爪を短く清潔に保つことが大切です。爪が脆くなったりすることがありますので、爪やすり等で磨かないようにしましょう。

浸出液がでたり、爪の周りが赤く腫れて痛む時は、担当医にご相談ください。

< 代表的な副作用の発現時期 >



MEMO : _____




◎ 監修 国立がんセンター中央病院 乳腺腫瘍内科グループ

◎ 編集 薬剤部

◎ 編集協力 乳腺腫瘍内科グループ

看護部



使用イラストはMPC刊「薬と予防イラスト集」「医療と健康イラスト集」より転載

2009.4 病歴委員会